

閉会挨拶 北海道済生会常務理事 榎引 久丸

皆様、お疲れさまでございました。第 12 回済生会生活困窮者問題シンポジウムの閉会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、今日、会場にお越しの皆様方におかれましては、長時間にわたりご参加をいただきまして、ありがとうございます。お疲れさまでございました。また、本日、基調講演をいただきました公益財団法人の尾形理事長様、そして今日、1 日の議論を有意義なものにいただきました小樽商科大学の片桐先生、そして日々、私どもと連携を取っていただいて、私どもの活動にご支援をいただいているご登壇のパネリストの先生方、この場をお借りしまして改めて御礼を申し上げる次第でございます。ありがとうございます。

さて、今日のシンポジウムですけれども、私どもがいま小樽で進めておりますウエルネスタウン構想のビジョンに基づいて、「小樽ウエルネスタウン発 誰もが自分らしく暮らせる未来を！」というテーマにさせていただきました。そして基調講演、パネルディスカッションの中でさまざまな取り組みをご紹介いただきまして、非常に有意義で、かつ詳細な情報をいただき、今後につながるよい会ではなかったかなと思っている次第です。

生活困窮者については現代のわが国の大きな社会問題の一つとなっておりますけれども、その状況については多様で、非常に複合化しています。そのために私たち、支援をする立場としては、より効率的に、さらには包括的に、そして重層的に取り組まなければならないと考えています。

われわれ済生会はいままでいろいろと取り組んでおりますが、今後はこの重層的といったところに力を入れ、小樽市様と一緒に、相談をさせていただきながら、このウエルネスタウンの中で活動を広げていきたいと考えている次第です。

最後になりましたが、このシンポジウムを開催するにあたりまして、格段なるご支援をいただきました小樽市様、それから小樽市社会福祉協議会様、さらには多くの関係者の皆様方に、この場をお借りしまして改めて感謝を申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。(拍手)